

大正八年一月元旦

除夜の鐘と共に一同立って万才三唱して札幌神社に参拝ス。午前十時中央講堂にて拝賀式あり。小松君来明、梶樽さる、食事なし。

一月二日 例年の佳例とて宮部舎長の御招にあづかり一夜慈父の許にあるが如く烈しき北国の寒気を忘る

一月三日 樋村君小樽へ旅行さる、食事なし。

一月六日 夕刻大小島、樋村両君小樽より帰舎さる、食事なし。小林君小樽へ外泊中の処本日帰舎さる、食事あり。

一月十日 夕食後購買あり

タイムス	二十一銭	上村君
東京朝日	三十二銭	大小島君
讀賣	二十六銭	渋谷君
太陽	三十銭	治部野君
中央公論	欠	

一月十一日 田中君（三号より八号へ）小林君（九号より三号へ）室がへさる。

一月十二日 村岡、村井両君国許より帰舎さる、食事なし。農学実科一学年生山野義雄君入舎せらる。

一月十四日 渡辺君三号より七号へ室がへさる。

一月十五日 小野君帰舎せらる。食事あり。

一月十七日 斉藤君四号より三号へ室がへさる。

一月十九日 山野君一号より四号へ室がへさる。

岡部、樋村、両君スキーにて手稲登山さる

一月二十六日 大正八年第一回月次会を開催す。

近来月次会に於て辯論漸く惰気を催せんとする傾向あるにかんがみ且は又廣く世間の識者の識見に接するは極めて大切な事にして吾人は吾人と見地を異にせる人士の声にも傾聴し得る人格を養はざるべからざるを感じ。由つて呉越の別なく名士の講演を我月次会の演壇に上さん事を希ふて今会は独立教会牧師竹崎師の講演を乞へり。

委員 亀井君 伊達君 小林君 樋村君

開会之辞 亀井君 入舎之辞 小野君

男完成 渡辺君 所感 田中君

年頭所感 小野君 未定 北村君

来賓演説

生を如何（新しき時代に所して）竹崎牧師

農家の実情について 石沢氏

宮部舎長には佐藤総長との御都合にて御入来なし。

一月二十八日 一月分決算を行ふ。毎月二十八日決算の事励行の事内約せり。

二月三日 競賣

讀賣	小野君	二十二錢
太陽	小野君	四十三錢
朝日	亀井君	二十八錢
タイムス	村岡君	十九錢
中央公論	岡部君	五十錢

二月九日 農学実科一学年生中村弘志君入舎せらる 此日岡部君蝦夷富士スキー登山ノ目的をもってスキー部員九名と共に出発さる。壮挙天恵を祈る。

二月十日 夜、豊田、首藤両君退舎さる。

二月十一日 紀元の嘉節としてピンポン大会催し、汁粉饗応あり。優勝者小野君（八人抜）、伊達君（四人抜）

二月十三日 岡部君蝦夷富士スキ登山大成功の報をもたらして帰舎さる。

二月十八日 齊藤君病気の為歛食。

二月十九日 鈴木君脚気の為欠食。

二月二十二日 齊藤君取食

此日月次会を開く、委員黒岩、村井、村岡、岡野の四名  
石澤氏審判の許に「牛と馬といづれが優れりや」の鬪論に一夜泡を飛ばす。

決議事項

引き続き三日以上歛食の時は決算日（毎月廿八日）をはさみて三日以下の歛食日数を次月に送るとも次月に於てその日数の食費を免ずる事とす。

二月二十四 二号室にて火鉢使用をはじめむ

二月二十八日 決算を行ふ

三月一日 競賣を行ふ

太陽 中村君 三十錢

中央公論

タイムス 鈴木君 二十錢

讀賣

朝日 小林君 二十錢

三月十五日 第二学期試験始まる

三月十七日 田中、村岡両君実習に行かる。食事あり。

三月二十二日 小野君帰省さる、食事あり。

三月二十四日 試験終る。岡田君帰省さる

三月二十五日 伊達君大小島君室蘭方面に旅行さる。小林君帰省さる、食事あり

三月二十六日 中村君苗穂ノ親戚へゆかる

三月二十七日 大小島君帰舎さる、岡部君小樽へ旅行。村井君軽川へ旅行さる。

三月二十八日 決算を行ふ

三月二十九日 早朝大小島、黒岩、鈴木の三君登別温泉にゆかる、同日村井君帰舎、夕食あり。

三月三十日 取り残されたるもの八人つどひて肉鍋を囲む、岡部君夕刻帰舎さる。

四月一日 渡辺君実習の為約二週間の予定にて忍路へ行かる。本日婆やの息子光輝来舎し  
同日大学植物学講堂付給仕トナル

四月二日 中村君帰舎さる。

四月四日 樋村君中村君小樽へスキーに行かる

四月四日 本日郡司さん肉や新得意に礼トシテ新通ニ旭豆（一斤入）一個持参せり。舎生  
早速同夜大コンパ会を開催せり。

四月五日 本日、舎の学僕タリシ河原君ニハ同氏ノ家庭ノ都合上の願ニテ解雇セリ、依リ  
テ以後ハ光博君代リテ満事ノ仕事ヲスル事トナレリ。

本日、疊屋ノ来リテ大修繕ヲ行ヘリ、

本日コートノ雪カキヲ行フ、是デハ三日間早クテニス出来ルト岡部氏大元氣

四月六日 兼テ旅行中ノ大小島、鈴木両君ニハ昨夜十時頃帰舎サル、本朝ヨリ食事アリ。  
彼ノカルルス温泉ニテ精鋭ノ氣ヲ養ハシメル、二氏ノ元氣ヤチト末オソロシ、食事係ノ  
注意ヲ促ス。

本夜十時頃、中村樋村ノ二氏スキー旅行ヨリ無事帰舎サル、忍路塩谷、小樽方面ノ冒険  
的滑走ハ実ニ壮挙タリ、目下忍路ニ在ル渡辺君ハ胃病ニ悩ミツツ在リトノ事ヲ二氏ヨリ  
聞ク、多分例ノ神経病ナランモ氏ノ元氣ニ実習ヲ終ヘテ帰舎サレン事ヲ祈ル。

四月十日 早朝岡部君千島地方実習ノ為出発、小野君帰舎さる、亀井君火鉢廃止

四月十二日 夜半岡田君帰舎さる。

四月十三日 朝黒岩君帰舎さる、黒岩君、鈴木君、火鉢使用

此ノ日室換ヘを行ふ

一号岡田君 二号田中君 三号岡部君樋村君 四号黒岩君小林君 五号大小島君治部野  
君 六号斉藤君 七号村岡君 八号伊達君鈴木君 九号渡辺君中村君 十号小野君山野  
君 十一号亀井君 十二号村井君

四月十四日 テニスコートの手入を為す

競賣を行ふ

太陽 亀井君 二十五銭 中公 岡田君 三十銭

朝日 小野君 廿七銭 讀賣 大小島君 三十五銭

タイムス 伊達君 廿六銭

四月十五日 樋村君小樽に行かる

四月十六日 好晴なり、風強し。有志八名の者荘内館よりローラーを借り来り、テニスコ  
ートの手入を為す、夕食後委員会を開く。

四月十七日 朝、突然渡辺君帰舎さる。

来る二十日宮部先生の送別を兼ねて月次会を開くとの掲示ありたり。

四月十九日 午後二時頃警鐘の音聞ゆ、南二條西十三丁目辺の家二軒全焼せる由、晝火事の事とて人出多く雑踏せられたり。

午後五時半、宮部先生の送別を兼ねて月次会を開く、四、五月以前よりの委員の努力により立派なる御馳走ありたり、食事後再び食堂に集り食卓の上敷布代りの紙は奇抜と言はんより名案なり、開会の辞の後に北村副舎長の舎生総代の送別の辞あり。

次に亀井、伊達両君の意を籠めたる送別の辞あり、終りて宮部舎長の答辞ありたり。

内容を概略述べんに、先づ送別の辞に対する謝辞ありて後に御謙遜の御言葉にて、官界の事は辞令を得ぬ中は解らぬか若し辞令下らば来月十六日出帆の天洋丸にて出発の予定である、と、それよりして、旅程や、渡米なさって後の御希望などを懇々と述べられ更に家族の内談となり渡米費の額や、教授の年俸などを御話ありたり。終わりに、若し渡米する様になると、舎長代理は石沢さんに御頼みし置きたり、又北村副舎長の後任は小野さんに御願ひせんと宣告せられぬ。

以上一時に亘る御演説愉快に拝聴したり、終りて茶の代りの牛乳と菓子、りんごの饗応あり、五分間演説は村井君を壁頭に大小島君を殿りに快活に有益に終りぬ。

宮部先生の御帰りになりしは九時半頃なりき。

四月十九日 春雨頻りに降り外は晴澹たり。

先生御帰りの後に委員の改選あり。

一、衛生 治部野君 二、食事 伊達君  
三、運動 大小島君 四、文藝 黒岩君  
五、会計 鈴木君 六、園藝 中村君

右の六人の諸君、当選せらる。次に

北村副舎長の河原學僕の代りに、賄婦の次男光輝を入舎せしめし理由説明あり、又、二、三の人舎に対する希望を述べなどし、円満に散会せしは午後十時半頃なりき。

四月二十日 朝来雲行悪しく雨降り強風さへ加はりぬ。午前八時半植物園に舎生全体及び宮部舎長にも来集せらる。幸に雨小止みせり。田中君朝の急行列車にて帰舎され、一同外行き顔にて寫眞を撮影す。

田中君再び午前十一時の汽車にて、実習地に向ふ、食事なし。渡辺君火鉢を止めらる。

四月二十一日 朝の急行列車にて村岡君帰舎す。

直ちに実習地に向ひ出発せらる。

午後、のんびりした、麗かな日光を浴しつつ、畑を掘り起す。労働の神聖なるは云ふを愚也。地方官更迭行はる、北海道開拓に功ある俵長官休職となり、岡山県知事笠井氏長官に任命さる。

四月二十三日 大正四年に購入せし此の日誌帖も終りたり。本日新しく購入す。代金壹円也

黒岩生記す。

青年寄宿舎日誌

自大正八年四月二十五日

至大正十二年十一月八日

爲念本學期に於ける委員を記せんに

食事 伊達君  
運動 大小島君  
衛生 治部野君  
会計 鈴木君  
園藝 中村君  
文藝 黒岩君

四月二十五日 風多き此の頃紅塵蒙々たり。行人の難儀言外に絶す。昨日より気分悪しきを忍び居りし賄婦遂に床に臥しぬ為に舎生の恐荒一方ならず。夕食は夕方、大騒ぎにて伊達君料理せらる。通常より味よく食しぬ。伊達君の勞は感謝に値す。されど共同生活の妙味又此の中にあるを知る。食後の後かたづけには豆腐屋の婆さん来る。

現今の舎生左の如し。

副舎長 北村卓爾君 第一号室岡田盛隆君 第二号室田中悦郎君 第三号室岡部彦庫君 樋村五郎君 第四号室黒岩吉之助君 小林作五郎君 第五号室大小島眞次君 治部野弘三君 第六号室齊藤嘉作君 第七号室村岡時夫君 第八号室伊達宗雄君 鈴木誠志君 第九号室渡辺文雄君 中村弘志君 第十号室小野榮治君 小野義雄君 第十一号室亀井専次君 第十二号室村井梅次郎君

菊池寛著「心の王国」定價壱圓參拾錢 購入

四月二十六日 春の女神の訪れは植物園に証拠歴然たり。午後は風和ぎたるため、三々、五々、植物園を訪ふ者夥し。ローン青毛氈の上に、仰臥するあり。三脚器に腰下して写生するあり、白のユニフォームに古代グリーキの勇士を偲ばせる、鉄脚腕を現はして来る遊戯會に勝者たらんと準備に餘念なきランナーあり、春の情景は皆此に集れりと云ふべし。

テニスコートの周圍の垣を作る爲めに舎生大努力をなす。人あり評して曰く「動物園の垣の如し」実情を得て妙といふ可し。

四月二十七日 小林君樋村君帰舎さる、食事なし。

四月二十八日 十号室（小野）火鉢使用を廃止さる。夜決算を行ふ。決算終りて八号室に舎生一同集りて、小林君の土産を御馳走になる。岡部君帰舎せらる、食事なし。四号室（黒岩、小林）、五号室（大小島、治部野）、八号室（伊達、鈴木）皆火鉢廃止さる。

三十日 齊藤君昨日より火鉢廃止さる。本日樋村君より文藝部を引継ぐ。金高は二円九十三錢五厘也。学校の体格検査二十八日より始り本日は実科の人達検査せり。舎生諸君の隆々たる筋肉を以てすれば何人にも劣らざる可し。

五月三日 宮部舎長愈々欧米に向ひ出發せらるる由新聞紙上に出づ。四月分新聞代を拂ふ。昨夕は春雨降りしに引き換へて、今朝は晴朗なる好天気なり。只鯉の吹流しのみ時折に揺めくのみ。風なく、日うららかなる、真にテニス日和と言ふ可き也。新しきホワイトラインの引かれたるコートに於て、岡部君の審判の下に試合の幕は切つて落され、心地よきボールの響は音高く鳴り始めぬ、時正に午前九時半なり。試合の経過左の如し。(三回ゲームなり)

◎大小島君	小林君
○治部野君	山野君
渡辺君	◎北村君
◎樋村君	治部野君
◎岡田君	伊達君
◎村井君	鈴木君
◎岡部君	小野君
◎亀井君	黒岩君

かくして此の試合は終り選士達各自休憩し、次に紅白勝負に移り興味益々湧きぬ。ゲームは三回ゲームなり。

紅軍	白軍
大小島君	治部野君
山野君	小林君
北村君	鈴木君
樋村君	村井君
伊達君	亀井君
渡辺君	鈴木君
岡部君	小野君
岡田君	黒岩君

遂に白軍の勝利に帰しぬ。中村君は大学運動会予選へ出席し、此の試合に不参加せり、及び齊藤君病気の爲めに不参は遺憾の極みなりき。晝食は運動部より汁粉の馳走あり一同舌鼓みを打ち食せり。

夜午後九時の急行にて宮部先生御出發なされたり。舎生一同御見送りす。汽車は欧米に向はせらるる先生と上京する佐藤大学総長を乗せて、長い気笛の音を残して去りぬ。夜は静に更け、星稀にして、三日月の光り赤くして、物凄し。先生の御健康を祈る。

五月五日 男の子の節句なり。食事委員健忘症に罹れるにや御馳走なかりしは物足らぬ感じせり。夕食後、新聞雑誌の競賣をなす。

朝日	貳拾錢	鈴木君
讀賣	參拾五錢	岡田君
北海タイムス	參拾五錢	小林君
太陽	四拾一錢	小野君
中央公論	六拾錢	大小島君
中外	六拾五錢	黒岩君
中外	二拾五錢	樋村君
中外	參拾五錢	治部野君
中央公論	三拾五錢	中村君

五月六日 四月分雑誌の代價を支拂ふ、代金壹円六拾錢也

五月七日 麗かな光り窓より差す。本日も亦好晴なり。

皇太子殿下の御成年式祝賀式あり。舎生一同出席せり。南博士總長代理をなす。

天皇、皇后兩陛下及び皇太子殿下の万才を三唱し解散せり。御成年式記念として左の図書購入す。

鈴木三重吉著「櫛」、芥川龍之介著「傀儡師」沖野岩三郎著「煉瓦の雨」以上。

会計より部費二円六拾六錢を受領す。

夜田中、村岡兩君帰舎せらる。但し食事なし。

五月八日 朝の中は晴れていたが夕方少し曇る。齊藤君病氣思はしからず、馬嶋病院に入院せらる。君の爲め舎の爲め憂ふべき事なり。夕食後委員会あり。今月の月次会は送別会を兼ねて来る十一日（月曜）に行ふ由決定す。委員諸君次の如し。渡辺君、山野君、治部野君及び伊達君、以上。

亀井君五月五日に卒業記念として左の図書寄贈せらる。「片上伸論集」、「独逸国民に告ぐ」、「剣道極意俗解」「箇中の樂地」「眞人間」、「生の創造と道德」「感情の修養」以上。

五月十日 種々の故障起りたる遊戯会の当日となりぬ。曇よりとせし空よりは雨さへ折々落つ。三発の花火上がりぬ。愈々決行さるるものなるべし。されど雨は頻りに落つ。八時半に至りて再び花火上がりぬ。競技は開始されぬ。されど林実と水産と脱会せしため何んなく物足らぬ感せり。殆んど豫科本科の競争の如く眺められぬ。余興も豫科と農実との二科だけにて淋しき程なりき。午後より暗雲低く垂れ籠めて雨さへしとど降りしきりぬ。各中等学校のリレーは北師軍見事に勝利を得たり。

雨は愈々本降りになりぬ、各科競争は又も農実の勝利に帰す。午後四時半降雨中に散会す。

五月十一日 昨日の如く雨は降らねど気温数日前より頓に下り寒冷の気を覚えぬ。

午後五時に卒業生の送別を兼ねて月次会を開く。焼肉に茶碗蒸、酢の物と、御馳走は和洋折仲にしてこつてりと出たり。委員諸君の御労古は謝するに足る。食後餘りに食ひ過ぎたるの觀あり、舎生一同テニスを爲す。

午後七時夕日西山の端に入り暗黒の幕轟々と押し寄せ來る時愈二伊達君の開会の辞によ

り開会は宣せられぬ。今晚は宮部先生は御留学、石沢さんも御旅行中の由にて御出席な  
さらず何んとなく物淋しき感ありき。小野君の舎生總代の送別の辞あり、次に有志演説  
に移り黒岩君大小島君岡田君渡辺君村井君山野君小林君樋村君等の熱誠を籠めたる送  
別の演説ありたり。本年の卒業生諸君は左の如し。

北村君、亀井君、岡部君、田中君、村岡君、齊藤君以上六人の諸兄なり。かくて後に小  
野君が舎生を代表して北村福会長に対し紀念品「万年筆」の贈呈の挨拶あり。

次いで北村副舎長の御謙遜なる御答ありたり。此の時に去年卒業せられし小松佐一君來  
舎せられ、「社会とは吾々の想像して居るよりもつまらぬ平凡なものである、又社会の  
人々は吾々の思つてゐる程に勉強はせぬものである」などと有益なる御經驗談りし、終り  
て茶菓の饗応あり、次に余興に移り小林君の詩吟を先頭に各自隱藝を出し、時の過ぐる  
を忘れたる程なりき、愉快に喰ひ歌ひ十時半に目出度散会せり。

五月十二日 豫科生一名天然痘にかかりし由

学校にては噂さ盛んなり。舎生諸君の一日も早く種痘せられんことを望む。卒業生諸兄  
のためとりし寫眞出来せり。價は一枚金七拾錢也。

五月十五日 昨日の陰鬱なる天氣に引きかへて本日は晴天なり。時の経過と太陽の恩、自  
然の恵みにより野山は新緑の衣に着かへぬ。花は短命なり。円山の花、円山の春、何時  
しか過ぎ去りしに非ず哉。諸君よ眠りより覚めて今少緊張せられんことを請ふ。園藝部  
にて、亀井君等の助けによりて舎の周囲に落葉松を植う。夜は運動部主宰にてコンパあ  
りたり。

五月十六日 朝の中は曇天なりしかど晝頃より晴れぬ。午後は一般種痘の爲め学校休みと  
なる。午後四時五十分の函館行きの列車にて水産の岡部君、林実の村岡君の二人出発せ  
らる。

岡部君は函館の会社に赴任の途なりと聞く

兄の爲めに神の祝福あらむことを祈る。村岡君は徴兵検査のためなりといふ、さらば御  
二人共に御無事ならむことを。

五月十七日 勝手もとの方のみ賄婦と豆腐屋のお母さんとで大掃除を行ふ。

五月十八日 朝日の時折りに曇れども直ぐにその笑顔を現はし、風さへ吹かぬ好き日なり。  
舎生一同春季大掃除を決行す。晝頃までに片付く毎年の事乍ら大掃除は始むるまでは厄  
介視さるるものなり、されど大掃除の終了せし後は各部屋さっぱりとし気持ち好く且つ  
衛生にも宜し。

午後曇る、夕食後、馬嶋病院にある齊藤君を訪ふ、元気らしく見受けぬ、夜掲示板に曰  
く「第参学期の行事も終了せり、試験も同捷の事に迫りぬ、宜しく静肅を旨とし勉強せ  
ん」

五月二十日 今朝突然宮部夫人の御母堂逝去さる悲い哉

・(以下二頁?削除されており不詳)



六月一日 齊藤君退院帰舎す。

六月三日 競売左の如し。

太陽	二十六銭	小野君
中央公論	三一銭	中村君
讀賣	二十八銭	樋村君
朝日	三十六銭	村井君
タイムス	二十二銭	鈴木君

六月十九日 晴れ 此日ハ我舎に取りて可成り紀念すべき日なるべし。少くとも舎生に取ては忘れがたき紀念の日なりき、そは何ぞ

前副舎長北村卓爾君華燭の典を挙げたる日なればなり、[■市] 南五条西九丁目皆川様方に居住せらる、新婦の御名は峯子殿と申す。

在舎中謹にして厳、且つ温情を以て吾等を教導し給いし同君は従來の比較的不如意の境涯より自由の身になられ今やうんをう〔蘊奥〕の契眩しく永久の幸福を享受をせらるゝに至る希くは同兄の前途増々光明多く幸多からん事を

廿一日 土曜 曇後雨

学年試験も残る一日となり舎生一同大奮闘中なり。日ならずして來る二ヶ月半の休暇如何にして暮すべき、旅行読書帰省等面白き事多かるべし。かくて來る涼しき九月には大いなる元氣を以て集らん事を各自の脳中に■■たらむ。

本年より文藝部に於て三冊を限り舎生に貸出すことゝせり。

休暇中借出書控

生命論 植村君

文は人なり

**Origin of Species**

日本植民論 大小島君

**Livingston's First Exploration to Africa**

**How I became a Christian**

樺牛全集 伊達君

旅人如処にありや

煉瓦の雨 小林君

明暗

チェホフ傑作集 渡辺

## 罪と罰

### 金剛草

- 六月廿五日 伊達君大小島樋村君帰省 食事あり
- 六月廿六日 小林君夜八時の汽車にて帰省
- 六月廿七日 渡辺君 実習のため旅行 朝食す。
- 六月廿八日 小野君四時五十分発の列車にて帰省す。
- 七月一日 渋谷、岡田両君実習に、午前九時の列車にて出発す。  
渋谷君は忍路へ、岡田君は苫小牧へ。  
今夜突然村井君退舎す。舎内益々寂寥を加ふ。
- 七月六日 村岡君午後四時五十分の汽車にて帰省す。
- 七月七日 齊藤君病軀をかゝへて帰郷す。本日食事なし。
- 七月九日 田中君午後四時五十分の汽車にて帰省。
- 七月十日 夜十一時の汽車にて根室方面に旅行に中村、亀井君、行かる。
- 七月十九日 午後九時亀井、中村両君根室網走方面の旅行より帰舎する。
- 七月二十日 農学実科二年級鈴木貞雄君入舎セラレ此日食事アリ
- 七月二十二日 留守居四人デ畑ノ草取ヲナシヌ、ソシテ夜ハ志る古ノ馳走ヲシタ
- 七月廿四日 留守居一同打揃ッテ石澤サンノ宅ニ到ッテ色々ト有益ナル話ヲ聞ク、莢豌豆  
ノ塩煮ノ御馳走ニ預ル、此頃早天打續ク
- 七月廿八日 会計決算ヲ行フ、留守連中ノ爲会ヨリ十三円余ヲ補助ス
- 七月三十日 明治天皇祭
- 七月三十一日 鈴木貞雄君今日午後四時五十分ノ列車ニテ郷里千葉縣へ帰省セラル
- 八月一日 本朝未明雷雨アリ札幌ニハ珍ラシ。
- 九月七日 留守居四人ニテテニスヲヤル
- 九月八日 富永長久（林実）笹部義一（農実）両君入舎ス、晝食アリ
- 九月九日 鈴木誠志君帰舎、晝食有り  
妙に陰鬱な元気なり
- 九月十一日 伊達君朝小林君ハ午後帰舎ス。  
外ノ連中未ダ帰ルモノナシ、三ヶ月一休モマダ不足カ
- 九月十二日 豫科一年奥田義正君入舎 晝食アリ
- 九月十三日 天気晴朗なれど惜むらくは風稍<sup>ハ</sup>あり、宍戸忠雄君入舎セラル、夜食アリ  
君ハ現在土木工学専門部一年在学中、月明ナレド風吹イテ甚し砂塵朦々。
- 九月十四日 午前中ニ鈴木君（農実二年）帰舎セラル、風強シ  
豫生小松君（昨年水産卒業の方）の御馳走にて副舎長の室に集り一同愉快に語る
- 九月十五日 樋村君帰舎セラル（朝食アリ）  
午前中ヨリ雨降り颱風強烈ナリ、昨夜ヨリ本日ニカケ妙ニムシ暑ク気持悪シ

九月十六日 豫科三年加藤知之君入舎サル、未ダ蒸暑シ

九月十七日 亀井君ハ六年間ノ舎生活ヨリ愈々今夜期シテ退舎シ下宿生活ヲナス、当舎君ニ負フ処大ナリ、何ゾ感謝ノ念ナクシテ可ナランヤ

植村君モ又家事の都合上退舎、九時ノ急行ニテ上京ス。君ノ心事察シテモ尚余リタリ、舎生殆ド停車場ニ植村君ヲ送ル 雨降り道悪シキ事甚シ

九月十八日 (雨) 単衣一枚ニテ未ダニ何等ノ寒サヲ感ゼズ、大小島君帰舎セラルタ食アリ

九月十九日 今日モ又雨近頃ノ天候ハ殆ド当ニナラズ

九月二十日 テニスヲヤル時朝モ少クナリシタメ小雨ヲオカシテテニスヲヤラン

九月二十二日 村岡君朝早く帰舎セラル

夜新入生歓迎会ト九月ノ月次会トヲ開催スルニ付キ旧舎生一同ニテ相談ス

九月二十三日 月次会兼歓迎会ヲ開ク、食事ハ五時半頃ヨリ始メ七時十五分ヨリ開会ス、尚御馳走ヲ参考マデニ云ツテ置クトさくら肉ナル一言ヲ以テツク。

伊達君ノ開会の辞ニ始マリ小野君、村岡君、渡辺君、小林君等ノ挨拶及ビ感想等アリタリ

余只驚ク、諸君ノ思想ノ豊富ニシテ演説ノ巧ナルニ殊ニ自己ナル二字ニ付キ語ラレタル事ニ対シテハ涙グマシキ状態ニ至ル事再三ナリ。

終リテ来賓トシテ出席サレタル北村、亀井両兄ノ懇篤ナル話アリ、両兄ニ対シテ満腔ノ感謝ヲ表シテモ尚余リアリ

只憾ムラクハ石沢氏出張ノタメ出席ナカリシ事ナリ、会終リ茶菓ノ饗ニ移リ、イロイロナル事ニ付相談ス 舎費ヲ一・三〇〇ヨリ一・八〇〇ニアグ、

委員ハ副舎長ノ任命ニ任ス

又同時ニ競賣ヲヤル

新年号 ○・三一 岡田君

中央公論 六月号 ○・二六 中村君

労働問題号 ○・五〇 笹部君

七月号 この雑誌紛失手に入らず故にとりけす

八月号 ○・四六 村岡君

六月号 ○・二八 鈴木君

太陽 七月号 ○・二七 小野君

八月号 ○・三〇 村岡君

世界■造号 ○・五〇 鈴木(貞)君

世界大戦号 ○・九五 大小島君

世界地図 ○・九五 小林君

新聞 ○・二〇均一 中村君、小野君、宍戸君  
尚任命サレタル委員左ノ如シ

文藝部 伊達君 運動部 中村君  
食事部 鈴木君 衛生部 小林君  
園藝部 鈴木(貞)君 会計部 岡田君

余興ノ最後トシテへぼぬけヲ十五分間ヤリ十一時十五分ヲ以テ閉会ス  
余入舎以来歓迎サルル事一度歓迎スル事二度ニ及ベドモ本日位緊張セル然モ充実セル会  
ヲ開ケル事ナシ、而シテ同時ニ涙グマシキ気分ニナレル事モナシ  
請フ新入生諸兄ヨ本日ノ言葉ヲシテ眞実ニ意義アラシメン事ヲ  
明日ハ午前八時ヨリ秋気大掃除を行フ豫定也 更ケユク秋ノ夜ハ益々酣ナリ 人ノ心ヤ  
他人ノ信実ヲ聞ケル時程快ナルハナシ

九月廿四日 雨ノタメ大掃除延バサル

九月廿七日 学校カラ戻ルニ掲示アリ 今夜中ニ大掃除ヤラレ度シト云フ意味新ナリ  
大多数ノ人ハ本日ヤル、残ルハ二三ノ部屋ト廊下及ビ図書室ノミナリ。

九月二十八日 朝早クカラ皆掃除ス

二日ニワタツテ掃除スル事ハ同ジ仕事ヲ二日間繰リ返スト同様ダト思ハレル。  
紺碧ノ空ハ頭上に懸ル秋風ハ梢ヲ動カシ、白キ line ノ上「テニス」ヲヤル人数多アリ、  
只憾らくハ風稍々強キ事ノミ。

夜ハ九月決算ヲヤル一日平均〇・六三〇、従来ノ舎費一・三〇〇ナリシモノヲ一・八〇  
〇ト月次会ニ決定シ本月ヨリ是ヲ施行ス

九月三十日(火) 岡田君より当部事務引継ぐ、借財山の如くあり、当部に限りたること  
ならざれど、無責任に仕事をやられてはたまつたものにてなし。少し考えて物事をされ  
度し。岡田君と共に憤慨す。

今夕、農実一年管文二君(夕食あり)

水産 愛橋方正君 入舎

十月二日(木) 今週石狩行は参加人数不足に付(各人事故多く)来週に延期す。銭湯の  
止湯交渉の処一ヶ月四十五銭にて承諾す、然し、組合規則にはなしとの事なり。

十月三日(金) 今年位雨多き年なし。この曇天が雪時まで續くかと思へば重し、されど  
夕方など三四人テニスせるを見受く。来る五日には舎の試合あればこれも道理か。小野  
君帰舎。

十月四日(土) 小野君、再び小樽に向け朝出発。中村、大小島、宍戸、伊達の四君も午後  
小樽に向ふ。

十月五日(日) 小野、中村、二君午前帰舎、午後庭球試合アリテ後トマトウの饗應あり。  
夜七時頃、鈴木誠、大小島、伊達の三君帰舎。

十月六日(月) 夕食後競賣あり、左の如し。

九月分残り 二六 小野君

讀賣 三三 伊達 北海タイムス 三一 笹部君

朝日 二八 小野君 中公 六〇 鈴木誠君

太陽 五五 村岡君

十月八日（水）夕食後委員会を開き記念会のことを議す。可成早く、今月の天長節になすこと決す。余興なども質素に気のきゝたる様になし度き状況なり、今宵、明月の夜なり。午後八時より食堂に於て、枝豆、トウモロコシの御馳走あり、惜むらくは曇天にて月なし。

十月九日（木） 記念日役員を決定す。

接待係 主任 伊達君 係小野君、奥田君、鈴木貞君

会計係 主任 岡田君 係小野君

会場係 主任 渡辺君 係小林君、宍戸君、笹部君

余興係 主任 中村君、係村岡君、加藤君、愛橋君

番組係 主任兼係 大小島君

食事係 主任鈴木誠君 係村岡君、山野君、須賀君、富永君

十月十日（金）久し振りにて岡部君カムチャッカより、山野君瀬棚より帰舎さる。舎も賑かになりて嬉し。夜、両兄の視察談、副舎長室にてありたり。

十月十一日（土）夕、小林君小樽に向はる。此夜、一週間前より待ち焦れをりたる如く殆ど全部の舎生外出。

十月十二日（月）晴天、誠に珍らしき日なり。野幌に向ふ人あり、庭球を為す人、野球を見に行く人〃等にて十二分に遊びたる様なり。夜食には岡部君の御土産の御馳走あり。

十月十三日（月）暴風雨の日、記念会の歌成る。今夕より練習を開始す。

十月十五日（水）豫科三年の連中は実弾射撃にて月寒に向ふ。

十月十七日（金）神嘗祭にて休日なれば数日来の懸案なりし手稲登山を決定することとなせり。時機も遅し、殊に昨夜の大雨にて悪路なる可きを思い決心にふりたれど今朝の晴朗なる空と運動委員中村君の堅き決心として■舎生の二三はくづ※※云ふものありしが元気旺盛にて出発す。汽車中降雨ありしが軽川に着きてよりは空晴れたり。路も思ひの外よく好都合なり、嶺上に至りては風寒くして晝飯を食してより、直ちに山に向ふ。三時三十分の汽車にて帰札。

十月十八日（土）寒気彌〃増す。本日より火鉢使用室左の如し。五号室、十一号室。

十月二十日（月）十一号室、本日より引き続き炭使用のこと。本日は文武会、月寒に新入会員歓迎会を催す。当舎にても新入生全部出席せるも途中雨天となりし為、直ちに帰舎せる者多し。

十月二十一日（火）臨時休業。みな、歓兵式あり、見に行く人もあり。

十月二十三日（木）午後八時半頃、チャガイモの御馳走あり。

十月二十五日（土）午後二時より庄内館と庭球試合をなす。敵は何し負ふ。選手連の集る処とて、当舎奮闘したれど負北するも不止得、メンバー左の如し。

伊達君岡田君、中村君、鈴木貞君、村岡君岡部君、奥田君小野君。

午後八時南瓜の御馳走あり。

十月二十九日（水）明日に切迫せる記念祭の為、舎生一同、準備に忙殺さる。背景の執筆に、余興の練習に、楽しき豫想を感じしめた。

朝より、何となく、心落ちつかず。舎生の顔皆緊張せるものゝ如し。放課後帰舎、大急ぎにて会場の設備、食事の用意等にて忙し。

食事の始まりしは既に、七時頃なりし。当日の来賓として、石沢氏夫妻、河村氏、北村氏、亀井氏、五藤氏

開会の辞 小野君、入舎の辞 管、愛橋両君

有志演説、来賓演説、石澤氏 記念会歌齊唱、青年寄宿舍萬歳、閉舎の辞 小野君

余興

本年の記念にては諸物價暴騰の為め食事の方中々困難なりしに、実に見事なる御馳走は食事委員の努力に依ることと感謝す、余興も、手数のはぶけしに反してかへって面白き趣興のものありて同様満足せり。

この夕、鈴木誠志君修学旅行に出発。

十一月一日（土）夜競賣、タイムス（中村君）四五銭、朝日（小野君）六二銭、讀賣（愛橋君）四六銭、中公（宍戸君）五〇銭、太陽（小野君）四二銭

林学科一年渡辺国雄君、水産科一年太田廣吉君入舎（食事あり）。

十一月二日（日）稀に見る好晴、豫科加藤君、小林君、奥田君、登別方面に修学旅行。

十一月三日（月）稀に見る好晴、午後、運動部中村君主催、藻岩登山をなす。誠に愉快なりし。午後七時半、豫科修学旅行団帰舎、同時に岡部君、故郷に向け出発す。

十一月五日（水）豫科生徒、発火演習。

十一月六日（木）豫科生徒、休み。冬空らしき模様なり、やがて雪は降らん。

十一月九日（日）初雪あり

十一月十日（月）岡田君、突然退舎せらる。君の如き稀に見る人道主義者にして、影の如く、時には日向になり舎の為に盡力せられたる此の舎の理解者を失ふは実に忍ぶ可らざる損失なり。此頃、舎中、何となく舎の性質を理解せざるかと思はるゝ行為あるやに見受け、殊に、君を失ふ痛惜に不堪。

十一月十三日（木）夜九時急行にて小野兄御尊父御病氣の故を以て帰省。

十一月十四日（金）今朝、午前六時宮部先生夫人逝去せらる。夜七時より告別式を自宅にて行はる。村岡君、副舎長代理として列席さる。

十一月十五日（土）午后二時より宮部先生宅にて故夫人の假葬儀執行、舎より代表として村岡、伊達両君出席。

十一月十八日（火）委員会を開く、土曜、月次会、委員奥田君、大小島君、笹部君、宍戸君

十一月二十日（木）降雪あり、初めて冬らしき感あり。

十一月二十二日（土）夜、月次会、来賓、石澤氏、河村氏、亀井氏、舎の風習、各自の意見等に就き議論沸騰す。

十一月二十三日（日）本日舎生テニスせるあり、本年の如き稀に見る快晴續きのことなれば、かゝることも得べし、蓋し、かく季節おくれて、テニスなどせるは近来珍しき事ならん。

十二月一日（月）昨今はまた暖き日なり。本日より洗面を湯にかふ。十一月分の決算漸くにして完成、一ヶ月舎費約二十円餘なり、蓋し創立以来最高なるべし。

十二月八日（木）山崎さんとて大正五年農実を卒業致され同時ニ退舎セラレタル御方御出ニナル。

十二月二十日（土）大小島君一時二十五分ノ列車ニテ帰省致サル

漸ク本日試験ノ終了セル日ナルヲ以テ積日ノ慰勞トシテ本年最終ノ月次会ヲ催サル

一人分百目以上ノ肉ハ満足ヲ与ヘテ余リアリトイフベシ。役員ノ新思考ニ依リテ各人勝手ノ問題ヲ提供シ抽籤ニヨリテ定メテ即座的出題ニ就テ話ス事也。

1、科学ハ人生ヲ滅亡セシム 二、■は世をのがれんか？ 3、ウナギの出現より星の運行に論見すべし。 4、不老不死の■ 等はその一二例なり、実に面白かりき後にて石澤さん山崎さんの話なりたり、他に河村さんの御出席ありたり。

本日ハ左ノ如ク部屋変ヘ行ワル

一号岡田盛隆君 二号愛幡君管君

三号岡田玄武君加藤知之君 四号笹部君奥田君

五号小林平君渡辺国雄君 六号村岡時夫君

七号渡辺文雄君 八号鈴木誠志君太田廣吉君

九号鈴木貞雄君、宍戸忠雄君 十号伊達宗雄君、小国潔君

十一号大小島君富永君 十二号中村弘志君

投票ノ結果役員左ノ如シ

鈴木貞雄君（食事員） 菅文二君（衛生部）

太田廣吉君（運動部） 奥田義正君（文藝部）

十二月廿一日 伊達君十勝に行く

十二月廿二日 寒稽古始マル 小林君小樽に行く

十二月廿三日 宍戸君午前十一時の列車にて小樽に行く

十二月二十七日 餅搗きを行ふ（餅米五斗、一升六十六錢一厘）午前七時に初めて午後二時に終る。元気潑潑たる青年ばかりの餅搗も亦見るから心地よかりき、亀井さん来らる。